

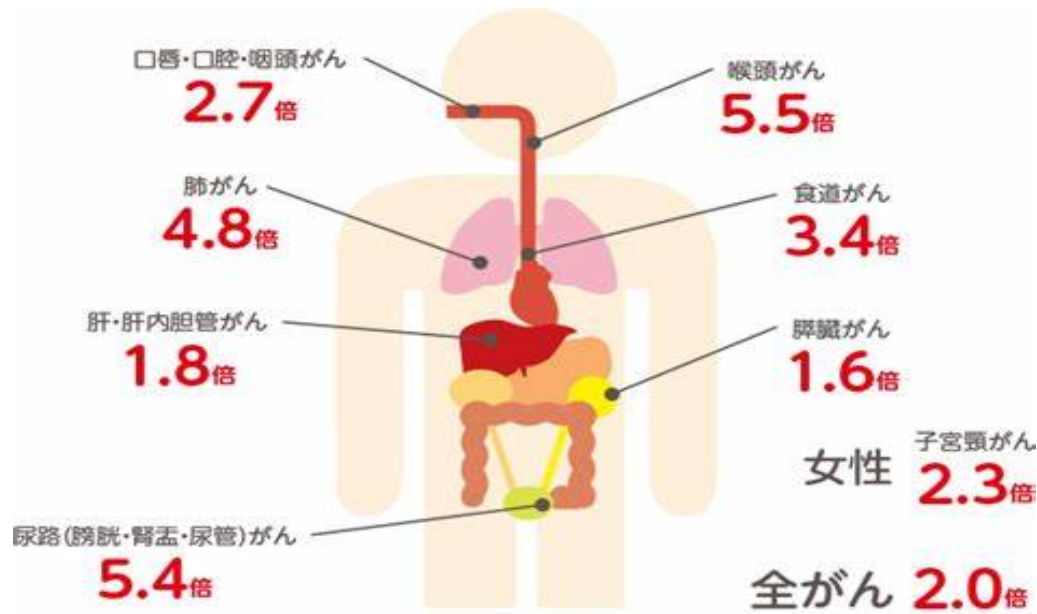
より医学的に喫煙を知ろう！

能動喫煙による疾患について・・・2



東北文化学園大学 健康管理センター保健室 2019年 7月発行 Ver. 20

喫煙で上昇するがんリスク



ニコチン依存症は、確実に病気で治療が必要です。専門医のいる禁煙外来を受診するほかに、自分で禁煙するための補助として、薬局で購入可能なニコチンパッチやニコチンガムもあります。大学保健室では、ニコチン依存症のスクリーニングテストを受けることができます。必要に応じて、**お試し用のニコチンパッチも差し上げます**ので、是非相談に来てください。

Katanoda K, et al. J Epidemiol. 2008; 18: 251-64. より作図

～悪性腫瘍～

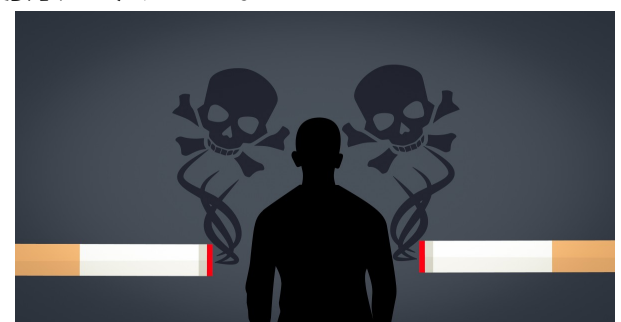
WHO 国際がん研究機関 (IARC) の国際評価によるとタバコでがんになることは確立された事実である。

日本人の喫煙と発がんについては日本の免疫学研究でも、がん全体のリスクが喫煙で上昇することは事実である。

a.能動喫煙は・・・肺や咽頭にとどまらず、さまざまな部位の発がんリスクも上昇させる。

b.タバコと発がんの因果関係に関して・・・2012年にWHO 国際がん研究機関 (IARC) がまとめた再診評価で以下の多くの新知見が加わった。

- ①大腸、卵巣（粘液性）、女性乳がんにも発がん性があると新たに評価された。
- ②同程度の喫煙量では、女性の方が男性より肺がん発症リスクが高い可能性がある。
- ③禁煙は発がんリスクの低減効果が大きく、早く禁煙するほど効果が大きい。
- ④禁煙後も、発がんリスク上昇がしばらく残存する。
- ⑤がん発症後でも、喫煙継続より禁煙した方が生存期間も長い。



禁煙相談希望の方は1号館2階 大学保健室に来てくださいね。